

平成27年度岡山ESD推進協議会
岡山ESDプロジェクト活動支援助成金事業報告書

事業名 「働き方百科」進路を考える若者が働き方・生き方に出会えるトークイベント
だっぴ50×50 ～2015～

団体名 NPO 法人だっぴ

担当者名 柏原 拓史

※活動の様子がわかる写真（データもお願いします）と説明を必ず添付してください。

1. 活動内容（日時、場所、参加対象者、人数、内容等）

・日時：2015年7月19日（日）12:30～18:00

・場所：国際交流センター8階

・参加対象者：高校生から25歳くらいまでの新社会人

・人数：規模114人（ゲスト58人、参加者56人）

※ゲストとして50人程度の多様な生き方をしている魅力的な社会人として招待

・内容

(1) イベント実施まで

- HPによるゲスト情報の発信
- 上記を含め各種メディア媒体を用いた広報とイベント認知度の浸透（定着のため）
- 協賛金の依頼と確保（地域が支える継続したイベントを目指すため）
- Facebookの活用

○本番以前にも、ゲストである岡山の魅力的な働き方をする社会人の下へ、各スタッフがインタビューをし、ゲストの活動内容の紹介を行いFacebook、twitterを使用して情報の発信を行った。実行委員が現役の職業ライターの方から記事の書き方を学び実行委員も成長できる仕組みを整えた。より質の高い記事を閲覧者に提供できFacebook上でのリーチ度も大幅に向上した。

(2) 当日

- アイスブレイクを取り入れた雰囲気作り・・・（場を創る）
- ゲストの活動紹介・・・・・・・・・・・・・・・・（参加者を知る）
- 少人数のグループに分けた、座談会の実施・・・（気付きを深める）
- 参加者で内容を共有する・・・・・・・・・・・・・・・・（気付きを共有する）

○イベント開始前に「ヒューマンチェーン」と呼ばれるアイスブレイクを行い、参加者、ゲスト、スタッフ同士が和やかな雰囲気で座談会が行われるように工夫をした。

少人数毎に分けたグループの座談会では、「あなたが若いうちにやっておいた方がいいと思うことは？」など全体に出された問いに対し、各自が自分の生き方や考え方について深く考える話合う機会を設けることができた。画像に添付しているアンケートの結果は良好で、例年以上の参加者からの満足度を得ることができた。

(3) イベント実施後

- イベント後も参加者同士が繋がれるように、地域の社会人と若者をつなぐ情報交換の場を設定。SNSなどを用いたネットワーク構築を図る。
- フェイスブック等を活用した継続した情報の発信

次年度の開催に向けた実行委員の募集（気付きから成長の場を提供）

○例年に比べて本事業終了後もゲスト主催のイベントのお誘いを実行委員が受けることが多く、イベント終了後もゲストとの深いつながりが実行委員の中で構築できている。イベントを行って終わりではなく、参加者とゲストがその後も繋がるようにゲストからお誘いのあるイベントなどに実行委員がパイプとなって声掛けを行い、このつながりが参加者レベルまでより見られるようになった。

また、本事業の認知度向上に伴い、実行委員志望の参加者の数も例年以上に多く、本事業を通して成長を望む若者のニーズの高まりが感じられた。



2. ESDの視点を取り入れたところ、ESDの視点で見直したところ

当時者である岡山の学生などを中心とした若者が実行委員会を組織して取り組んでいて、NPO法人だっぴがその実行委員の実現力を高める学ぶ場としてサポートを行っている。具体的には、参加している実行委員は、企画の作り方からミーティングの進行方法、社会人への依頼方法やスケジュール管理、広報の手法など全てを一通り学ぶことが出来る。これらを通して、若者の実現力を高め、それぞれの問題意識のもと次の実践行動を起こせるように工夫している。

また、本事業は毎年継続しており、参加者が次の実行委員になれるように声掛けやサポートを行っているほか、社会人ゲストの方の活動に参加できるようにその後の声掛けなども行っている。

2015年度から規模を20人程度の小規模にした本事業を学生がリーダーとなって行っており、より本事業の参加者への間口を広げている。





3. 取組の成果（参加者の変化、感想など）

参加者の自己肯定感に大きな変化があった。具体的には参加前の事前アンケートと参加直後の事後アンケートで集計を取り、参加者の自己肯定感の変化を調べたものに大きな変化があった。

特に大きな変化があったのは二点。一点目は「自分の行動により、自分の周囲の状況を少し変えられるかもしれないと思うか？」という質問に対して「とても思う」の割合が10%から57%にまで上昇した。

同様に二点目は「より納得した進路選択をするためにできることに取り組んでみたいか？」という質問に対しても、この割合は33%から78%にまで上昇した。

また、参加者から実行委員へと変化する若者が企画の作り方を学び、本事業以外の場でも高校生の進路選択をより豊かにする独自の企画イベントを行うなど、本人の問題意識や興味を本事業で学んだこと活かし、次の実践活動に移るような事例もあがっている。

加えて、上記2で述べたように本事業の縮小版を「政治」「戦争」などテーマを決めて行うようにして本事業に関わりたいというニーズに対して参加の門戸が大きく広がったことも大きな変化の一つである。

第6回 だっぴ50×50 アンケート結果(2015年7月19日)

(参加人数:54人、アンケート回答者:54人、回収率:100%)

Q1 大人になるのが楽しみだ、または、働くことが楽しみだ



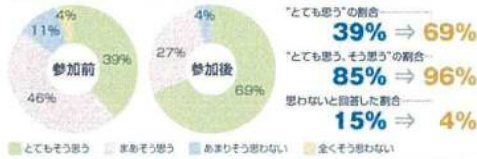
Q2 私は自分のことを大切にしようと思う



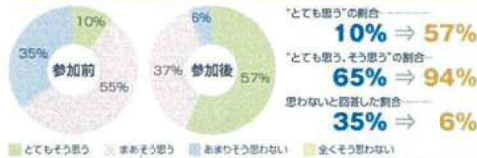
Q3 私は自分の将来に希望を持てる



Q4 私は多くの人の役に立ちたい



Q5 自分の行動により、自分の周囲の状況を少し変えられるかもしれない



Q6 社会をよりよくするため、私は社会や社会の問題に関わっていきたい



Q7 自分の未来は自分で働けば変えられると思う



Q8 自分のなりたい理想像や将来の夢がある



Q9 日常の過ごし方を変えようと思っている



Q10 私は、私の住んでいる地域(市町村)が好きだ



Q11 より納得した進路選択をするために取り組んでみたい



Q12 両親や先生に生き方や進路選択について相談したいと思う



Q13 両親や先生以外の大人の人に進路選択について相談したいと思う



4. 今後の課題と展望

「ESD」や本事業である「だっぴ」といった言葉を知らない層の若者に対して、より一層認知度を高めるだけでなく、参加まで引き込めるだけの広報とコンテンツの工夫が必要であると考える。具体的にはこれまで活動を報告する機会を持たなかったため、社会人向けの報告会、学生向けの報告会と社会的認知度の向上と、まだまだ認知度の低い学生層に向けての草の根的広報を定期的に関いていくことを始めている。

本事業は若者が新しいことに挑戦し、価値観の多様性を知るきっかけの場としても機能している。ゆえに、すでにそのような機会を自ら作れる若者達には参加という形でなく、今年度より開催している教育現場との連携開催イベントの実行委員などステップアップの機会をより多く設けていき、より本事業を届けたい層に届けることにも注力していく。